

Nutrition Reformの会 症例検討会マニュアル



症例**検討**会であること

- 症例勉強会(レクチャー形式)
 - 近森理事長方式
- 症例提示・症例紹介(グループディスカッション形式)
 - PNDLTs
- 症例検討会(対話的、自問的)

Nutrition Reformの会で目指すのは



症例検討会

Nutrition Reformの会における 症例検討会の目的

1. 症例提示者が今日の栄養管理より、明日の栄養管理が良くなるための振り返りができるような症例検討を行う。
2. 参加者が自分の症例(疑似体験)として経験値を積むことができるような症例検討を行う。

1、2が達成できるかは80%症例提示者にかかっている

スライド作り

- ① タイトル(1枚)
- ② はじめに(1、2枚)
- ③ 症例提示(年齢、性別、主病名、既往歴、現病歴)(1、2枚)
- ④ 栄養アセスメント(1、2枚)
- ⑤ first assessment、栄養プラン(根拠をしっかりと)(1枚)
- ⑥ 経過、second assessment、栄養プランは適宜盛り込む(根拠をしっかりと)(6枚前後)
- ⑦ 考察(振り返って、良かった点・悪かった点をわかりやすく、良し悪しを判断した根拠)(2、3枚)
- ⑧ 反省点、次に活かすために変えること(継続してやりつづけること)(1枚)

15～20分くらいが目安。スライド14～20枚くらい。

タイトル → 考察・まとめ

- タイトル

どんな患者に何をしたのか？

- 考察・まとめ

- 1) 今回の患者にとって自分の栄養管理は良かったのか、悪かったのか
- 2) 良かったなら何が良かったのか
- 3) 悪かったなら、何を、いつ、どんな栄養管理をすればよかったのか

「明日全く同じ状態の患者さんがきたら、どんな栄養管理する？」

- 反省点はとにかく具体的に(5W1H)

症例検討会のポイント1つ多くても2つまで

- **はじめ**には導入

- 今回振り返りたいことについて教科書、論文を調べる

- **症例提示、栄養アセスメント、経過**はタイトルとまとめつなぎ

- その時に何を考えたか、どこに注目してアセスメント、プラン考えたか。経過中に何に注目していたか。

- **考察**は振り返りの根拠

- Step1 自分の症例をしっかりと振り返る
- Step2 論文などの栄養管理と比較する
- Step3 自施設のデータを含めて比較する

症例検討会のStep up(症例提示者)

1. まずは症例検討会で症例提示者になる。
2. 症例をしっかり振り返られているか、症例から良い点、反省点を抽出できている。



高い壁がある気が・・・
意識しないと絶対に越えられない

3. 教科書、ガイドライン、論文を元に振り返り(考察ができています)。
4. 症例提示者を教える。

Key word

- ・ 当時は何を考えて、アセスメント・プランをしたの??
- ・ 当時の栄養管理は良かった??悪かった??その理由は??
- ・ 全く同じ状態の患者さんが来た時に次はどんな栄養管理をしてあげるの??

Nutrition Reformの会の 症例検討会参加ルール

1. わからない用語を先に質問しよう
2. 経過やアセスメント、プラン立案の根拠を確認しよう



ものすごい高い壁・・・
事前準備も必要かもしれない

3. より良いアセスメント方法、プランがあれば共有しよう

世話人は3を目指そう

症例検討会の流れ

症例提示

症例準備担当

症例解説者

1. 2ヶ月前に症例提示者決定。
2. 世話人の症例準備担当者とは症例検討会に向けて事前準備。
※.ここが1番勉強になる
1. 当日、症例提示。質疑。
2. 症例検討会30分程度。症例解説1時間半。2時間1セット。
3. 症例提示を2～3回で症例準備担当候補
4. 症例準備担当を経て症例解説者